

黒石

お笑いコンビ「シソンヌ」のコントで使われた小道具の竜のオブジェが、黒石市の松の湯交流館に展示されている。尾上総合高校(平

川市)の生徒が地元である黒石やこみせ通りに人を呼び込もうと企画し、じろうさん(弘前市出身)の協力により実現。生徒らは「たくさんの人に見に来てほしい」と期待している。(野村遥)

シソンヌの「竜」見に来て

尾上総合高生が企画



同校の課題研究授業の中で、総合学科4年の佐々木佳悟さん(18)と佐藤愛叶さん(18)とともに黒石市「こみせ通り」を盛り上げる方法を模索。コント台本展示など弘前市土手町を活動づけるじろうさんの活動を参考に「こみせでも同じようなことができないか」と思案していた。

このアイデアを聞いた担任の木村歩教諭が知人のつてをたどりじろうさんに相談したところ、コントの小道具をあげるの自由に使って何かやってみたら」と快諾を得たという。4月末にはじろうさんが同校を訪れ、小道具の竜を2人に直接寄贈した。竜は昨年のライブで行われたコント「対

シソンヌが使った小道具の竜を湯船から掲げる(右から)佐々木さん、佐藤さん

松の湯交流館 小道具展示

「談」で使用したもの。じろうさん扮するとんかつ屋の店員が、客が飲んだ薬の包装シートを集めて制作した」という設定だ。

今日1日、佐々木さんと佐藤さんは同交流館に2・5ほどの竜を運び入れ設置。誰でも自由に触ることができ、湯船の中から竜を持ち上げる構図での写真撮影がおすすめという。今後は来館者数の推移を検証していく。撤去時期は未定。

佐々木さんは「お風呂に竜がいるインパクトは大きく、興味を持ってもらうにはいいと思う。シソンヌさんのコントに使われた小道具があることで、松の湯交流館を訪れる目的になってくれれば」と期待。8月にはシソンヌが弘前市でライブを行う予定があり、佐藤さんは「ファンの方をはじめ、いろいろな人に見に来てもらえたら。竜がこみせのシンボルになってほしい」と話した。